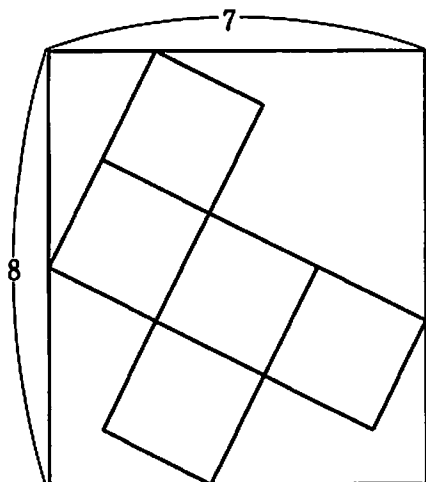


京都数学オリンピック道場 第3回

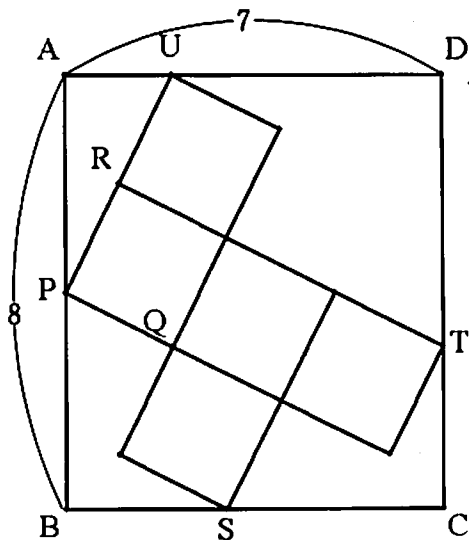
1. 『2001年 日本数学オリンピック 問題番号2』

縦の長さが8，横の長さが7の長方形の中に，5つの合同な正方形が下図のように詰め込まれている．正方形の1辺の長さを求めよ．



解答

下図のように頂点に名前をつける．



Bを原点， \overline{BC} ， \overline{BA} をそれぞれ x 軸， y 軸とする座標をとり， $\overline{PQ}=(a,-b)$ とおくと， $\overline{PR}=(b,a)$ となる． $\overline{PT}=3\overline{PQ}+\overline{PR}$ の x 成分， $\overline{SU}=-2\overline{PQ}+3\overline{PR}$ の y 成分を比較すると，連立方程式

$$7=3a+b, \quad 8=2b+3a$$

が得られる．これを解いて， $(a,b)=(2,1)$ ，

よって，正方形の1辺の長さは $\sqrt{a^2+b^2}=\sqrt{5}$... (答)

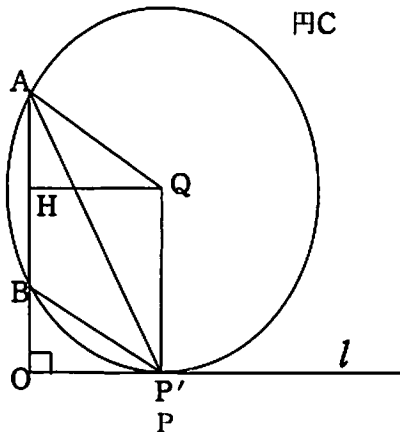
京都数学オリンピック道場 第3回

2. 『2005年 日本数学オリンピック 問題番号3』

OA=2, OP=a, $\angle AOP=90^\circ$ なる直角三角形AOPの辺OAの中点を点Bとする.

このとき, $\angle APB$ を最大にするような a の値を求めよ.

解答



PはOAに垂直でOを通る直線 l 上にある。2点A, Bを通り, 直線 l に接するような円Cを考える。PがCと l の接点P'以外の l 上の点であるとき, Pは円Cの外側にあり, $\angle APB$ は円Cにおける円周角 $\angle AP'B$ より小さい。

よって, $P=P'$ が $\angle APB$ を最大にするPである。

$P=P'$ のとき, 円Cの中心をQ, QからOAに下ろした垂線の足をHとすると,

$$QA=QP=\frac{3}{4} \times OA = \frac{3}{2}, \quad HA = \frac{1}{4} \times OA = \frac{1}{2} \text{より,}$$

$$a = OP = QH = \sqrt{QA^2 - HA^2} = \sqrt{2} \quad \dots \text{(答)}$$

別解

$\alpha = \angle APO$, $\beta = \angle BPO$ とおくと, $\tan \alpha = \frac{2}{a}$, $\tan \beta = \frac{1}{a}$ であるから,

$$\tan \angle APB = \tan(\alpha - \beta) = \frac{\tan \alpha - \tan \beta}{1 + \tan \alpha \tan \beta} = \frac{\frac{2}{a} - \frac{1}{a}}{1 + \frac{2}{a} \cdot \frac{1}{a}} = \frac{\frac{1}{a}}{1 + \frac{2}{a^2}} = \frac{1}{a + \frac{2}{a}}$$

相加平均と相乗平均の不等式から, $a + \frac{2}{a} \geq 2\sqrt{2}$ であり,

等号が成り立つのは $a = \sqrt{2}$ ($a > 0$)のときである。

したがって, $\tan \angle APB$ は $a = \sqrt{2}$ のとき最大になる。

$0^\circ < \angle APB < 90^\circ$ であるから, \tan が増加関数であることにより,

$\angle APB$ も $a = \sqrt{2}$ のとき最大になる。... (答)

京都数学オリンピック道場 第3回

3. 右図の $\triangle ABC$ において、

$$\angle OAB = 40^\circ, \angle OAC = 10^\circ, \angle OBA = 30^\circ, \angle OBC = 20^\circ$$

である。 $\angle BOC$ の大きさを求めよ。

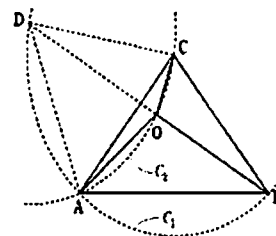
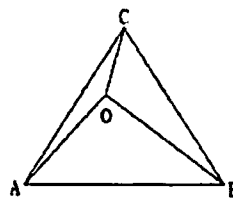
解答

点Cを中心として、2点A, Bを通る円を C_1 とする。半直線BOと円 C_1 の交点をDとする。このとき、弧ADに対する円周角の定理から $\angle ACD = 60^\circ$ なので、 $\triangle ACD$ は正三角形である。したがって、点Dを中心として、2点A, Cを通る円があり、これを C_2 とする。直線BDと円 C_2 の交点を O' とする。

$\triangle BCD$ は二等辺三角形であるから $\angle CDO' = 20^\circ$ である。弧 $O'C$ に対する円周角の定理から、 $\angle CAO' = 10^\circ$ である。一方、仮定より $\angle CAO = 10^\circ$ であり、 O も O' も直線BD上の点であるから **O と O' は一致する**。

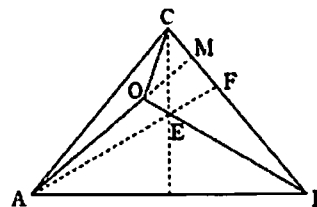
したがって、 $\triangle DOC$ は二等辺三角形とわかり、

$$\angle DOC = \frac{1}{2}(180^\circ - \angle CDO) = 80^\circ \quad \therefore \angle BOC = 100^\circ \dots (\text{答})$$



別解1

頂点Cから辺ABへ下ろした垂線と線分OBとの交点をEとする。このとき、 $\triangle AEB$ は二等辺三角形になり、 $\angle EAB = 30^\circ \dots \text{①}$ 、 $\angle OEC = 60^\circ \dots \text{②}$ である。直線AEと辺BCとの交点をFとする。さらに、直線AOと辺BCとの交点をMとする。①より $\angle FAM = 10^\circ \dots \text{③}$ であり、**直線OAは $\angle CAE$ の二等分線**である。



$\angle ACM = 80^\circ$ 、 $\angle CAM = 10^\circ$ より $\angle AMC = \angle AMF = 90^\circ$ であるから、③と合わせて、 $\triangle AFC$ は二等辺三角形になる。したがって、 $\angle AFC = 80^\circ$ であり、 $\angle OEA = \angle FEB = \angle EFC - \angle EBF = 60^\circ \dots \text{④}$

②、④より**直線OEは $\angle AEC$ の二等分線**である。したがって、**点Oは $\triangle AEC$ の内心**とわかり、 $\angle OCE = 20^\circ$ である。これと②より、 $\angle BOC = \angle EOC = 100^\circ \dots (\text{答})$

別解2

まず、次の等式が成り立つことに注意しよう：

$$\sin \angle OAB \cdot \sin \angle OBC \cdot \sin \angle OCA = \sin \angle OBA \cdot \sin \angle OCB \cdot \sin \angle OAC \dots \text{①}$$

①を示すのは容易である。例えば点Oから辺AB, BC, CAに垂線を下ろす。

さて、①に $\angle OAB = 40^\circ$ 、 $\angle OBC = 20^\circ$ 、 $\angle OBA = 30^\circ$ 、 $\angle OAC = 10^\circ$ を代入して、 $\angle OCA = x^\circ$ 、 $\angle OCB = 80^\circ - x^\circ$ とおくと、

$$\sin 40^\circ \cdot \sin 20^\circ \cdot \sin x = \sin 30^\circ \cdot \sin(80^\circ - x) \cdot \sin 10^\circ$$

$$\therefore 2 \sin 10^\circ \cos 10^\circ \cdot \sin 40^\circ \cdot \sin x = \frac{1}{2} \sin 10^\circ \cdot \sin(80^\circ - x)$$

$$\therefore 4 \cos 10^\circ \cdot \sin 40^\circ \cdot \sin x = \sin(80^\circ - x) = \cos(x + 10^\circ) = \cos x \cos 10^\circ - \sin x \sin 10^\circ$$

$$\therefore (4 \cos 10^\circ \cdot \sin 40^\circ + \sin 10^\circ) \sin x = \cos 10^\circ \cdot \cos x$$

$$\therefore (8 \sin 10^\circ \cdot \cos 10^\circ \cdot \sin 40^\circ + 2 \sin^2 10^\circ) \sin x = 2 \sin 10^\circ \cdot \cos 10^\circ \cdot \cos x$$

$$\therefore (4 \sin 20^\circ \cdot \sin 40^\circ + 2 \sin^2 10^\circ) \sin x = \sin 20^\circ \cdot \cos x$$

$$\therefore (4 \sin 20^\circ \cdot \sin 40^\circ + 2 \sin^2 10^\circ - \cos 20^\circ) \sin x = \sin 20^\circ \cdot \cos x - \cos 20^\circ \sin x = \sin(20^\circ - x) \dots \text{②}$$

$$\text{ここで、} 4 \sin 20^\circ \cdot \sin 40^\circ + 2 \sin^2 10^\circ - \cos 20^\circ = -2(\cos 60^\circ - \cos 20^\circ) + 2 \sin^2 10^\circ - \cos 20^\circ$$

$$= -1 + \cos 20^\circ + 2 \sin^2 10^\circ = 0 \text{ であるから、②より}$$

$\sin(20^\circ - x) = 0$ である。 $0^\circ < x < 80^\circ$ より $x = 20^\circ$ 。よって、 $\angle OBC = 20^\circ$ なので $\angle BOC = 100^\circ \dots (\text{答})$

京都数学オリンピック道場 第3回

4. 『1999年 日本数学オリンピック 問題番号8』

三角形ABCで、 $\angle A = 60^\circ$, $\angle B = 20^\circ$, $AB = 1$ のとき

$\frac{1}{AC} - BC$ の値を求めよ.

解答

$\triangle ABC$ が上記のように正三角形ABEの一部であることに着目し、
 $BC = x$, $CA = y$ とおくと、三角形の頂角の二等分線の性質により、
 $AC : DC = BA : BD$

これは、 $y : (1 - 2y) = 1 : x$

よって、 $xy = 1 - 2y$

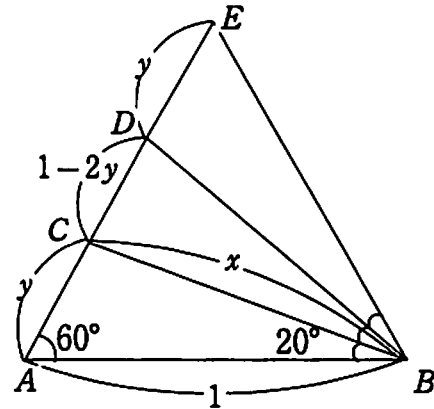
$y \neq 0$ なので、 y で割ると

$$x = \frac{1}{y} - 2$$

$$\frac{1}{y} - x = 2$$

これは、 $\frac{1}{AC} - BC = 2 \dots$ (答)

であることを示している。

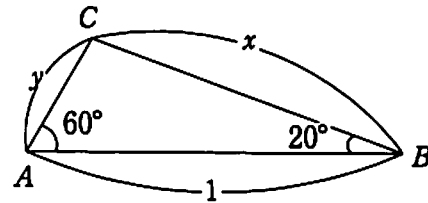


別解

$\triangle ABC$ において、正弦定理を適用すると、

$$\frac{x}{\sin 60^\circ} = \frac{y}{\sin 20^\circ} = \frac{1}{\sin 100^\circ} = 2R$$

これより、 $x = \frac{\sin 60^\circ}{\sin 100^\circ}$, $y = \frac{\sin 20^\circ}{\sin 100^\circ}$



求める値 $\frac{1}{AC} - BC$

$$= \frac{\sin 100^\circ}{\sin 20^\circ} - \frac{\sin 60^\circ}{\sin 100^\circ} \dots \dots \textcircled{1}$$

$$= \frac{\sin^2 100^\circ - \sin 20^\circ \sin 60^\circ}{\sin 20^\circ \sin 100^\circ}$$

$$= \frac{\frac{1 - \cos 200^\circ}{2} + \frac{1}{2}(\cos 80^\circ - \cos 40^\circ)}{-\frac{1}{2}(\cos 120^\circ - \cos 80^\circ)}$$

$$= \frac{1 - \cos 200^\circ + \cos 80^\circ - \cos 40^\circ}{\cos 80^\circ - \cos 120^\circ}$$

$$= \frac{1 + \cos 80^\circ - (\cos 200^\circ + \cos 40^\circ)}{\cos 80^\circ - \left(-\frac{1}{2}\right)}$$

$$= \frac{1 + \cos 80^\circ - (2\cos 120^\circ \cos 80^\circ)}{\cos 80^\circ + \frac{1}{2}}$$

$$= \frac{1 + \cos 80^\circ - 2 \cdot \left(-\frac{1}{2}\right) \cos 80^\circ}{\cos 80^\circ + \frac{1}{2}} = \frac{2\cos 80^\circ + 1}{\cos 80^\circ + \frac{1}{2}} = 2 \dots$$
 (答)